

2023年度愛知芸術文化センター運営会議 会議録

1 日 時

2023年8月8日（火） 午前10時00分から11時30分

2 場 所

愛知芸術文化センター12階 アートスペースA

3 出席者

委員14名

別添「出欠表」による

4 傍聴者

なし

5 知事あいさつ

6 議 事

- (1) センター長あいさつ
- (2) 各組織の部門長からの事業概要説明
- (3) 各専門委員会委員長からの委員会報告
- (4) 国際芸術祭推進室長からの事業概要報告

7 意見交換

<大村座長>

それでは、各委員の皆さまから御意見、御質問等願いたいと思いますが、いかがでございますか。

<井上委員>

井上でございます。

私はこれまでこの場に出るたびに、アトライブラリーの充実ということをお願いしていたのですが、今年、県図書館から「愛知県図書館開館30周年記念誌」を送っていただきまして、そこに資料費と蔵書の推移が出ていたのですが、それを見てちょっとびっくりしました。開館した1991年度から1994年度は年間2億円の資料費があり、1991年当時の資料費は、都道府県の図書館の中で第2位であった。それが、どんどん減っていき、2011年度以降更に削減が重なって、2020年度には約3,700万円ということで、開館当初の約5分の1を下回った、という一節がございました。この感じというのは、私の体感とよく合っているんですね。こここのところ、いろいろな研究のことで、例えば静岡県や石川県の県図書館とかに行くのですが、みんなどこももっと元気なんです。

それで、実は2022年度の資料費の予算額というのを、インターネットですぐ見られる

のですけれども、47 都道府県で調べて、ソートにかけて、1 番からずらっと並べてみました。それをみなさんに今日お見せしようと思い、持ってまいりました。まず、1 番が東京都で、3 億 1,756 万 7 千円ということです。3 億円ですね。それで、わが愛知県がどこかといいますと、33 番目。それで、3,500 万円なんです。これはいかがなものかと。東京都は群を抜いて多いわけですけれども、それでも、大阪が 1 億円で、その次にくるのが、お隣の静岡県で 8,000 万円台、それから岡山県がきて、神奈川県がきて。県の大きさでいきますと、東京が 1 番で、次が今は神奈川県でしょうか。そして、大阪府がきて、愛知県だと思うのですけれども、これは、中部圏の中核の県の図書館という、それなりの資料というものを持っておかなければいけない、また、各市町村とかに貸し出したりするためにも、最低限のことは必要という中で、私はちょっとこの表がショックだったんです。それで、愛知県の上にくるのが京都ですけれども、京都は愛知県よりも人口が少ないです。皆さん美術館でも図書館でも、本当に一生懸命いろいろな面白い取組をやっていらっしゃることを、私は常々知っています。ただ元がなければできない。それから、もともとこの資料費というのは、やっぱり削ってはいけないものではないかな、と。特に、今、本の値段、一冊一冊高くなっています。普段に、買おうと思っても躊躇ってしまうような、特に専門書となりますとそれが甚だしくなります。そういうものこそ、県の図書館が入れなければいけないだろう、ということで、これは、資料費の予算を、元のように上げていただけないだろうか、という問題提起といいますか、お願いでございます。

もう一回言いますと、開館 30 周年の記念誌によると、1995 年以降だんだん減少して、1999 年度には税収が前年度を大幅に下回る見通しに加えて、基金の枯渇などの影響もあり、8,000 万円台と開館時の予算の半分以下となった。それで、2000 年度から 2005 年度は 7,000 万円台で横ばいを維持し、2006 年度に一旦 8,000 万円台に増加したが、2011 年度以降削減が重なり、2020 年度には約 3,700 万円になった、と。そして、2022 年度は 3,500 万円ですね。これでも少し戻しているのです。2021 年度はもっと酷かった。これでは何もできません。3,500 万円では何もできない。これは、いろいろな資料の予算を含めてのことです。資料費全体としての話です。ということで、この場で私が言うべきことではないかと思って、お話をさせていただきました。ありがとうございました。

<大村座長>

ありがとうございました。何か意見ありますか。

<清水図書館長>

愛知県図書館館長の清水です。

御指摘のとおり、資料費については、開館当初から下がっております。ただ、この貴重な予算を、愛知県図書館といたしましては、購入する資料を愛知県固有の歴史、文化、産業に関する資料、それから地域の課題解決に係る資料、こういうものに重点化して購入することで有効活用をしようと考えております。

また、今日も説明させていただいたのですけれども、寄付をいただく制度、Book サポーターや雑誌スポンサー、こういうものも始めております。こういうものも活用しまし

て、積極的にみなさまの期待に応えられるような愛知県図書館を目指してまいりたいと考えております。

<井上委員>

すみません。寄付をいただくというのは、それを最初からあてにしてはいけないのではないのでしょうか。国立科学博物館がクラウドファンディングをやったという話がありましたけれども、こういう資料費みたいな、基本的な予算というものは、やはり元はちゃんと確保する、それが大事ではないかと思えます。

それから、今仰っていただいた、資料収集方針の重点収集分野ですが、結局お金が無くなってきたので、ものづくり文化資料、地域資料、健康医療資料の3つの分野に絞って、それで収集するという方針を2018年度に取られたということですね。ただ、これは、私は、県図書館がやるべきことではないと、はっきり言って思います。やっぱり県図書館というのは、門戸を大きく、最初は総花的に資料を購入していたというようなことを書いてありましたけれども、その地域の核となる図書館だからこそ、まんべんなく入れるべきではないかと。だから、一時そういうことがあったとしても、これでいい、ということになってしまうといけないので、愛知県の立ち位置を考えていただきたい、そう思いました。

<大村座長>

ありがとうございます。しっかり参考にさせていただきたいと思っております。

さて、他に御意見、御質問等あれば、よろしくお願いいたします。

<伊藤委員>

愛知県陶磁美術館の伊藤です。

今、愛知県の立ち位置というようなお話があったのですが、愛知県美術館の活動といいますと、すごく考えられているなという気がするんです。やはり、愛知県の施設というのは、愛知県民のためにいかにあるべきかというのはすごく大きなポイントでありますし、もう一つ、やはり愛知というのは、東海の雄であり、中部の雄であり、その全体の地域を引っ張らなくてはならない役目。そういったところを意識していらっしゃるということが、愛知県美術館のやり方としてはすごく大事なことを行われていると思います。そこで、面白いのは、愛知県美術館の方法が、「二兎を追う」。その「二兎を追う」というのは普通いけないことだとされるのですけれども、いろんな人に来てもらう展覧会を一生懸命やるというものもあれば、愛知県の明治の博物館的な、愛知県美術館でしかやれない、他のところでは誰が見に来るかというのが、行ったらすごく面白い、そういった、ここでやらないといけないような展覧会もやる。その一方で、ジブリパークの展覧会をやる、そういうことができているというのは、すごく面白いな、と。だから、この「二兎を追う」というのは、もっとどんどん進めてもらえればと思います。

そして、あと一つ、どうしても愛知県により大きく期待するのが、例えば、愛知の明治の博物館という展覧会、日本中でほかにやれるところといたら石川県くらいですね。

石川県は、やはり明治からそういう博物館、博覧会を大事にしていまして、それが今の石川県美につながるのですが、あそこなどは伝統産業にすごい力をいれて、それで人間国宝は何人もあふれているし、工業王国になっている。それに対して、東海地区というのは、実はもともと工業王国なんだけど、そういった部分というのはどんどん弱くなって、愛知県下で日本の工芸展というのは会場がなくなってしまった。こういう状況というのは、本当にもったいない感じがするんですよ。だから、一方で、そういったところも、ある意味愛知が引っ張ってあげないと東海は沈んでしまう、すごい力があるんだな、というのを思ったりもします。

やっぱり、常に良いところを、それは、愛知のために引っ張るということを追いつつながら、愛知の雄としてこの地域を引っ張るぞ、というのを、愛知はやれるし、やらなくちゃいけないし、やったらすごいな、っていう風に思っております。我々も頑張りますけれども、勝手に期待もさせていただいております。

<大村座長>

ありがとうございました。他に御意見、御質問等あればお願いいたします。

<水野みか子委員>

名古屋市立大学の水野と申します。私は劇場の利用のことでお伺いといいますか、感じていることを申し上げたいと思います。

愛知県芸術劇場を普段からいろいろと利用させていただいたりしているわけですが、先ほど小ホール利用率が低い、しかし今年度の後半は増えるだろうという見通しもお伺いしました。その上で、コロナ前と比べて、感じていることが一つあるのですけれども、利用の仕方、利用しようと思って申し込むときの仕方が大変に複雑で、取りにくいのかな、という意識、感想を持っております。なぜかというのを、はっきりと、具体的に言うのは難しいのですけれども、例えば、3日間連続公演のものは12か月前に取る、それ以外は11か月前と、そのような利用方法があるのですけれども、いざ借りるという立場でホームページに入ってみますと、他の愛知県内の、名古屋市や長久手市などの貸館に比べて、非常に利用の仕方、申し込み方が難しく、かなり敷居が高いものですから、予約を逃してしまったり、余儀なく公演日を変えるということがあったりしております。それで、この貸館の受付の制度について、ちょっと整備していただいてもいいのかな、という風に思っています。我々借りる立場としては、非常に大事なことでありまして、それをお願いしたいと思います。

<浅野芸術劇場館長>

愛知県芸術劇場館長の浅野でございます。いつも御利用いただきましてありがとうございます。

申し込みのことのお尋ねがありましたけれども、確かに、書類関係、それからその条件等、複雑にお感じになるところもあると思いますので、今、劇場内でもいろいろな調査とか、あと今月末にはユーザーの方をお伺いして、直接ヒアリング等も行う予定としてお

りまして、これは毎年やっているのですけれども、またお客様の声を聞きながら、いろいろ検討してまいりたいと思います。

また、当劇場の小ホールにつきましては、非常に特殊な形状になっておりまして、平土間でも、いろんな形状の客席ができるとか、あとは照明も自由に吊れる。当時できたとき、実験劇場と言われるほど、少し特殊な劇場でございますので、どうしても安全面とか、それからその使い方の自由度の大きい部分をお客様にお伺いすることも多くなってまいりますので、そういった部分で、御迷惑をお掛けしていると思います。けれども、引き続き利用しやすい劇場を目指してまいりますので、どうぞ今後ともよろしく願いたします。

<佐藤委員>

名古屋国際工科専門職大学の佐藤久美でございます。

この愛知県で、国際イベントが大変充実して、定着してきたと感じております。先程御説明のありました、「国際芸術祭『あいち』」も、昨年度も私も見させていただいたのですけれども、各地域で開催されて、特に有松は何より地元の人たちがとても喜んでいらっしゃいました。私がイベントディレクターを務めさせていただいております「あいち国際女性映画祭」も2025年には30周年を迎えます。昨年度は「国際芸術祭『あいち』」ともコラボレーションさせていただいたのですけれども、あいち男女共同参画財団の理事長も、30周年に向けていろいろと企画を考えておりますので、ぜひその節にはコラボレーションをお願いしたい、と思っております。

それから、つい先日開催されていた「ワールドコスプレサミット」もちょうど今年20周年を迎えまして、今年はコロナも明けて、33か国からのコスプレイヤーたちが参加したチャンピオンシップも、この大ホールで行われました。海外からたくさんの人たちが、この大ホールで、自分の国から来た参加者たちを応援している姿に、私はとても感動を覚えました。ベルギーとかメキシコとか、そういった人たちが、この芸文センターに集まって、この愛知県芸術劇場を目的にしてやってきたんだな、ということに非常に感動を覚えました。また、ここはロケーションがとてもよくて、オアシス21と一緒にしているイベントも、コスプレイヤーたちがうまく行き来をしながら楽しんでいる姿に、大変よかったと思っております。

どうぞ今後とも国際イベントの充実ということも大変重要なことだと思いますので、よろしく願いたいと思います。

<大村座長>

ありがとうございました。

<岡田委員>

県の教育委員の岡田でございます。

二つほど質問させていただきたいのですが、美術館の普及教育事業の中で、小学生・中学生・高校生向けの鑑賞プログラム、それからオンライン授業の実施というようなこと

で、子供たちのためにこうした取組をしていただけることを大変ありがたいことだと思います。このコロナ禍で、学校現場でも随分オンラインの授業が進んでおりまして、こうしたいわゆるソフト面的なところを充実していただくというのは非常に学校現場としてもありがたいということで、少しで結構ですけれども、内容と実施実績や状況、そのあたりを教えていただきたいというのが一点。

それから、先程、芸術劇場の利用の御質問がございましたけれども、もちろん大ホールやコンサートホールの利用の目的や趣旨は十分理解した上で、ちょっとお聞きしたいのですけれども、実は、かつて私が会長を務めておりました1,500人規模の会を大ホールで総会、講演会を行いたいということでお願いをしたところ、それは講演が音楽関係ではないから駄目だということで、断られた経緯がありました。これは、その趣旨からいえばそのとおりだなという風に思うのですけれども、このところコロナが5類になったことで随分回復してきたとの報告がございましたけれども、以前に比べると、やはり慢性的に利用者数が減少している傾向にあるということも伺いました。ですので、趣旨とは反するかもしれないけれども、もちろん芸術とは言えないけれども、文化には貢献している、という部分もあると思うので、多少そのあたりのゆるやかな趣旨、目的を考えていただいて、利用者を少しでも広く募るということも必要ではないかなということ素人ながら考えるわけでありまして。そのあたり、利用者促進のための取組みたいなものを、どんな風に考えてみえるかというのが二つ目の質問でございます。

< 拝戸美術館長 >

まず、美術館の方からお答えします。

教育普及的な事業は、オンラインとオフラインという形だと思いますが、オンラインにつきましては、先ほどのスライドでもお見せしたように、作品がある美術館と授業を受けられている学校の教室をオンラインでつないで、作品を持っていかなくても、作品を体験できるような試みを前回はお見せしております。そして、オフライン、つまり、具体的に生徒に来ていただいてというところも、毎度の展覧会ではないのですけれども、展覧会に合わせて、あるいはコレクション展示室に入らせていただいて、そこで作品を鑑賞して、それを机に座ってフィードバックするようなプログラムを、学校の先生方等と協力しながら組んでやっているということで、オフラインもオンラインも両方進めているという感じになります。学校の先生方には、開館以来、とても協力的な先生方がいらっしやって、その方々と定期的にミーティングを行い、生徒たちを募集してやっています。事業ごと、展覧会ごとではないのですけれども、展覧会は2回に1回くらいのペースでやっておりますし、コレクション展についても、そのように活動しております。

< 浅野芸術劇場館長 >

芸術劇場館長の浅野でございます。御意見いただきましてありがとうございます。

利用促進につきまして、いろいろ御意見を賜ったところでございますが、確かに、今までの芸術劇場の運営を申し上げますと、小ホールはそうではないのですが、例えば大ホールとかコンサートホールにつきましては、芸術を伴った公演をお願いいたしますといった

ようなお願いを皆様にしておりました。確かにいろんな御利用があって、文化に関することもあるかと思しますので、そういった意味において、今後検討してまいりたいという風に思っております。あと、利用促進につきましてですが、小ホールでは10月は100%を記録するなど、かなり今年度末にかけては、各ホール100%のところもあつたりしております。どうしても、皆さまが御利用する日は同じ日が重なることが非常に多く、抽選もたくさん出ておりますので、そういった意味で、広くいろんな日に御利用いただけるような策を考えてまいりたいと思っております。

また、当劇場では7万人プロジェクトという、学校招待とか、お子さんに向けての取組もありますので、引き続きいろいろと御指導いただければと思います。どうもありがとうございます。

<大村座長>

ありがとうございました。他にいかがでございましょうか。

<吉田委員>

女性団体連盟の吉田でございます。二つほどお伺いしたいのですが、もしかしたらやっつけいらっしゃるのかもしれないので、そうでしたらごめんなさい。

まず、図書館に関してですけれども、愛知県の担当課それぞれで頑張っていっしょやる、例えば環境とか、子育て・教育とか、あるいは安心安全とか、そういったところで、いろんなツール・教材などを作っていっしょと思うのですが、そういったものが県の図書館で見たり手に入れたりすることができるようになっていくかどうかお聞きします。といいますのは、図書館は、生涯学習の場だと思っておりますので、多くの皆さんが来館される場所です。県民にとって有益な情報は積極的に発信し、またそういうものが詰まっている場であってほしいと願っております。

もう一つは、芸術劇場の方ですけれども、先ほど親子を招いたりしていっしょやるようですけれども、学生さんを招いて、多くの子供たちにそういう機会を与えるということが一つの重要な役割だと思っておりますので、そこはとても素晴らしいと思います。それとともに、もう一つ、先ほど映画祭の話がされた方もいっしょにしましたけれども、今後、子供たちにとって映像というものが、ものすごく大きなものに、影響を与えるものになっていくとするならば、表現する場としての映像ということで、その映像を作る側の、プロフェッショナルなどをお呼びして、その方から何かを学べるような機会を作るということはいかがでしょう。つまり、知識を広く皆さんに知っていただくという面と、もう一つは、突出してそれに興味があって、とがってやっていきたいと思う子供たちの才能をもっと伸ばす、という意味の講座とか機会を与えていただけないかということで、お考えをお聞きしたいと思います。

よろしく願いいたします。

<清水図書館長>

まず、愛知県図書館について御説明させていただきます。

愛知県図書館につきましては、県の各部局と連携しまして、様々な企画、展示をやっております。例えば、今ですと、防災関係の展示を行っております、その防災関係の資料を配っております。今後もいろいろな部局と連携しまして、こういった展示や資料の配布を進めていきたいと思っております。

<吉田委員>

既にあるということですね。

<清水図書館長>

はい。

<浅野芸術劇場館長>

愛知県芸術劇場館長の浅野でございます。

映像につきまして、宣伝になってしまいますが、私どもも YouTube で劇場探検ツアーの映像等もつくっておりますので、また御覧いただければという風に思います。プロ向けの映像の講座というものはある程度やったりしておりますけれども、子供さん向けというのは、アプローチの方法や、機材等のこともあり、難しいところもありますので、御意見を賜りまして、またいろいろ参考にしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<吉田委員>

小さい子供ということではなくて、高校生・大学生ぐらいの子供たちに向けてということでお話しましたので、よろしくお願いいたします。

<浅野芸術劇場館長>

はい、承知いたしました。

<大村座長>

ありがとうございました。予定時間をちょっと経過いたしました。皆様方には貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。本日の御意見等につきましては、今後も愛知芸術文化センターの運営にしっかりと生かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、この回に限らず、引き続き芸文センターの運営、また様々なことについてお気づきの点があれば、お寄せいただきますように、お願い申し上げます。以上で、運営会議を終了させていただきます。